

がん検診受診率向上等に向けた 取り組みの進捗状況について

平成 28 年 10 月

熊本市健康づくり推進課

目次

I	がん検診受診率向上等に向けた取り組み計画	2
II	取り組み計画における進捗状況	3
III	取り組み計画	
	取り組み計画表（関係機関・団体）資料2-①	
	取り組み計画表（行政）資料2-②	

がん検診受診率向上等に向けた取り組み計画

1 目的

がん検診受診率向上に向けて、より効果的・効率的な方策を展開していくため、健康くまもと21推進会議がん部会による市民、関係機関・団体等のアンケート調査等を踏まえて、市民、関係機関・団体等それぞれが、課題への対応策に積極的に取り組むことで、市民のがん検診の受診率の向上及びがんによる死亡率の減少を図る。

2 方法

デルファイ法を活用したアンケート調査（1次調査～3次調査で構成）を健康くまもと21推進会議委員25名を対象に実施。「がん検診受診率向上に向けて課題」9つを選出し1位～9位までの優先順位をつけた。その課題について、市民、関係機関・団体等が具体的な方策を展開していくため、それぞれが取り組み計画を立て実践していく。

(1) 行政の取り組み計画

(2) 市民、関係機関・団体等の取り組み計画

※デルファイ法とは、メンバーがアンケートを通してそれぞれの意見を出し合い、出された結果を相互に参照し、再び意見を出し合う作業を行い意見をまとめていく方法。

3 進行管理

健康くまもと21推進会議に報告

順位	カテゴリー名
1位	がんに関する正しい認識と理解

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	市と共催で開催する市民健康フェスティバルでの市民講座、地域医療センター医師を講師とする市民公開講座、ヘルスケアセンターが10回シリーズで行う健康教室講座などの講演会を通して専門医の立場から情報の提供に努めた。	熊本市医師会
2	市民公開講座の開催、イベントへのタイアップと広報活動 歯科医師向けの講習会の開催と研修	熊本市歯科医師会
3	校区運動会(2ヶ所)で保健師さんと一緒に実施した健康コーナーで啓発をおこなった。	地域包括支援センター連絡協議会
4	健康セミナーや個別保健指導において、予防医療の観点から「がん検診」の重要性を周知させている。	熊本県保険者協議会
5	特定健診受診券送付時、熊本市のがん検診の受け方を詳細に記載した印刷物を同封。	全国健康保険協会熊本支部
6	・情報をホームページ、広報誌上で掲載 ・マスメディアと共催	日赤熊本健康管理センター
7	平成28年2月23日「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」を公表し周知を図っている。(別添資料有)	熊本労働基準監督署
8	事業場の産業保健スタッフ等を対象に食事でのがん等の生活習慣病に予防に関する研修、喫煙の健康影響に関する研修会を実施	熊本産業保健総合支援センター
9	公共のメディアで正しい認識が得られるような番組、又は紙面に記載、放送する。	熊本市私立幼稚園協会
10	委託事業の時に啓発活動(チラシ配布)	食生活改善推進員協議会
11	行政が作成されたパンフレットを推進員の例会で配布し、ポスターはコミセンに掲示した。	8020健康づくりの会
12	熊本市が作成・配布しているパンフレット等を、単位民児協例会時に配布するなどして各民生委員・児童委員に周知するよう取り組んでいる。	熊本市民生委員児童委員協議会
13	託麻原校区では校区でのサロンで保健師を通じがん予防啓発の話があった。	中央区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	わくわく健康塾8/29「知ってください大腸がんのこと」(参加者:71名) 内容:大腸がん体験者の体験談、専門医の講話	健康づくり推進課
2	中央区19校区全てにおいて、校区のイベント・健康講座、役員等の会議などの場を活用し、がんに関する情報提供、リーフレットやクイズ・媒体を通して早期発見・早期治療の必要性についてPRを行なった。 <実施状況 19校区 88回 延べ4,122人>	中央区保健子ども課
3	・1歳半健診時(34回 延べ1,451人)及び3歳児健診時(34回 延べ1,402人)、妊産婦健康相談時(1,978人)において、熊本市のがん検診のパンフレットを配布し、啓発を行った。 ・子育てネットワーク・サークル・児童室等における健康教育、育児相談等の場で啓発を行った。	中央区保健子ども課
4	校区単位で行うイベント等での啓発 94回、延2,380 人に実施	東区保健子ども課

5	1歳6ヶ月児健診 79回1,921人、3歳児健診33回1,983人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。 その他、CKD予防教室1回34人、糖尿病予防教室2回41人、健康まちづくりサポーター70人に対して啓発を実施。校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。	東区保健子ども課
6	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、地域での啓発活動の場の提供など学校やPTAの協力が得られている。	西区保健子ども課
7	・幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。 ・各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。 ・民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。	西区保健子ども課
8	・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。 ・各校区の地域イベント、西区フェスタ等の機会を捉えて啓発を実施できた。3月6日に実施された上熊本エリア魅力発信まちづくり事業には、約300名の参加者に啓発を行った。	西区保健子ども課
9	・各校区の健康まちづくり活動の投稿実績は32件。 ・各校区が作成している広報誌に、健康課題として適宜掲載。	西区保健子ども課
10	西部公民館で5回実施された集団健診において、乳がんモデルや大腸がんモデルを使って、がん予防の啓発と受診方法についての周知を実施した。	西区保健子ども課
11	・子育てサークルでの啓発: 6校区、7回、125名に実施。 ・高齢者サロンでの啓発: 8校区、17回、338名に実施。 ・民児協や社協、自治協での啓発: 17校区、27回、479名に実施。 ・地域イベント: 12校区、13回、907名に実施。 ・集団健診結果説明会時に案内: 6校区10回、188名に実施 ・歯科活動にて、1回、7名に実施。 ・栄養士活動にて、2回、38名に実施 (内、がん征圧月間にて実施は3校区、3回、60名に実施)	南区保健子ども課
12	・年間通して、1歳半健診、3歳半健診にてリーフレットを配布し、母及び家族への受診勧奨を行った。(1歳半健診:1404名、3歳半健診:1358名) ・南区健康いきいきフェスタでがんブースを作ることはできなかったが、CKDコーナー等でがん啓発も行った。	南区保健子ども課
13	・幼児健診 2,645人(通年実施) 育児サークル 14回 208人 ・保育園の保護者会 2回 37人、 学校保健委員会 3回116人 子育て支援センター・児童館 8回 133人 PTA・学校保健委員会 5回 187人 所外育児相談 5回 32人 ・校区イベントでの啓発パネル設置 4回155人	北区保健子ども課
14	月ごとの年間啓発計画を作成し、計画的に啓発を行った	北区保健子ども課
15	・平成27年度も、テーマはがんでなく、「脳血管疾患及び心疾患」で実施。(1/30) 平成28年度は熊本地震により医療市民講演会を中止する。 ・NHK主催フォーラム「がんと生きる」に行政ブースを設置し、がん予防、検診、がん相談について啓発を行った。	医療政策課
16	町内自治会からの依頼が1件(9/6)あり、参加者からは講師(がん経験者)へ感謝の言葉が多数聞かれた。	医療政策課
17	拠点病院等で実施されるがんに関する講演会や研修会の情報を発信した。(23件)	医療政策課

順位	カテゴリー名
2位	効果的・効率的な広報

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	当会がスポンサーとなるTKU「健康レポート 医療大百科」(年間52回放映)でがんを取り上げたのが4回。専門の医師会員が図表等を示して分かり易く説明した。	熊本市医師会
2	ポスター、広報誌、新聞等に啓発の広告や記事を定期的に載せる 歯科医院に院内掲示を行う	熊本市歯科医師会
3	校区運動会(2ヶ所)で保健師さんと一緒に実施した健康コーナーで啓発をおこなった。【再掲1位】	地域包括支援センター連絡協議会
4	特定健診受診券送付時、熊本市のがん検診の受け方を詳細に記載した印刷物を同封。	全国健康保険協会熊本支部
5	リレーフォーライフ及び食と健康フェアに参加し、パネル展示やパンフレット配布によりがんの周知及び検診の受診啓発を行った。	全国健康保険協会熊本支部
6	・情報をホームページ、広報誌上で掲載 ・マスメディアと共催【再掲1位】	日赤熊本健康管理センター
7	熊本商工会議所の会報誌「商工ひのくに」(発行部数約6,500部)平成27年4月号のコーナー「情報のひろば」において、「熊本市がん検診のご案内」を掲載。会員企業の事業主並びに従業員に対して周知及び受診啓発を行った。	熊本商工会議所
8	職場における定期健康診断を確実に受診させるため、9月を強化月間として広報した。	熊本労働基準監督署
9	当センターのホームページでの広報活動	熊本産業保健総合支援センター
10	メディア及び地域での広報	熊本市私立幼稚園協会
11	委託事業等の時に啓発活動(チラシ配布)	食生活改善推進員協議会
12	啓発パンフレットの配布	8020健康づくりの会
13	理事会から各区会長会、そして単位民児協例会へと確実に情報を下ろし、民生委員・児童委員の日頃の活動の中で、地域の方からの相談に対応できるよう取り組んでいる。	熊本市民生委員児童委員協議会

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)						
1	がん検診受診率向上をテーマに川柳を募集し、優秀作品を掲載した啓発缶バッジを作成するとともに、市政だよりや検診のお知らせ等に掲載し、啓発を行った。	健康づくり推進課						
2	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病対策ネットワーク連絡会を校区単位の健康まちづくり報告会と合同で行っており、その中で、効果的な啓発や広報の仕方について話題として取り上げ意見交換を行なった。 校区広報誌やネット通信にがん情報を記載 地域での様々な会議や連絡会の機会を利用してがん予防について啓発し、受診勧奨を実施 校区イベント時に啓発し、実施状況を区のホームページ等に掲載 区役所の窓口やコミュニティセンター等がんに関するチラシを設置し、ポスターを掲示した。 	中央区保健子ども課						
3	<p>校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報提供を行った。</p> <table border="1"> <tr> <td>校区単位で行ったイベント</td> <td>94回、延2,380人</td> </tr> <tr> <td>健康まちづくりシンポジウム</td> <td>1回250人</td> </tr> <tr> <td>いきいき健康フェスタ</td> <td>1回36人</td> </tr> </table>	校区単位で行ったイベント	94回、延2,380人	健康まちづくりシンポジウム	1回250人	いきいき健康フェスタ	1回36人	東区保健子ども課
校区単位で行ったイベント	94回、延2,380人							
健康まちづくりシンポジウム	1回250人							
いきいき健康フェスタ	1回36人							
4	10月のがん征圧月間に合わせ、区のホームページ、フェイスブックによる広報を実施。チラシやパネル等による広報を実施。校区の巡回健診の日程に合わせ、チラシを作成し、広報を行った。	東区保健子ども課						
5	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、地域での啓発活動の場の提供など学校やPTAの協力が得られている。【再掲1位】	西区保健子ども課						
6	<ul style="list-style-type: none"> 幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。 各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。 民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。【再掲1位】 	西区保健子ども課						
7	<ul style="list-style-type: none"> 校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。 各校区の地域イベント、西区フェスタ等の機会を捉えて啓発を実施できた。3月6日に実施された上熊本エリア魅力発信まちづくり事業には、約300名の参加者に啓発を行った。【再掲1位】 	西区保健子ども課						
8	<ul style="list-style-type: none"> 各校区の健康まちづくり活動の投稿実績は32件。 各校区が作成している広報誌に、健康課題として適宜掲載。【再掲1位】 	西区保健子ども課						
9	西部公民館で5回実施された集団健診において、乳がんモデルや大腸がんモデルを使って、がん予防の啓発と受診方法についての周知を実施した。【再掲1位】	西区保健子ども課						
10	天明・飽田支所だより等でがんに関する情報発信と集団健診の案内を行った。	南区保健子ども課						
11	「どぎゃんかせんといかん、がん検診」というフレーズを入れたチラシを作成し、幼児健診等で配布し啓発活動を実施した。	北区保健子ども課						
12	NPO法人いのちをつなぐ会の講座「カラダとココロの話」(熊本市後援)の中で、検診の重要性の広報を行った。(6月)	医療政策課						

順位	カテゴリー名
3位	がん検診の受診方法の周知

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	市が行う受診勧奨とは別に、大腸がんについては某NPO法人が作ったリーフレットを、巡回の肺がん検診、胃がん検診の際に手渡し、又、各医療機関にもチラシを配布した。	熊本市医師会
2	通常の医科のがん検診の中に、口腔内のがん検診もいれてもらいたい各歯科医院での診察の徹底を周知する	熊本市歯科医師会
3	情報をホームページ上で掲載	日赤熊本健康管理センター
4	当センターのホームページでの広報活動	熊本産業保健総合支援センター
5	職場の検診の中に組み込んで受診する。	熊本市私立幼稚園協会
6	委託事業の時に啓発活動(チラシ配布)	食生活改善推進員協議会
7	特定健診の受診をすすめた	8020健康づくりの会
8	熊本市が作成・配布しているパンフレット等を、単位民児協例会時に配布するなどして各民生委員・児童委員に周知するとともに、日頃の活動の中で地域の方からの相談にも対応できるよう取り組んでいる。	熊本市民生委員児童委員協議会
9	託麻原校区では自治会の会議の中で保健師からがん検診のお知らせがあった。	中央区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病対策ネットワーク連絡会を校区単位の健康まちづくり報告会と合同で行っており、その中で、効果的な啓発や広報の仕方について話題として取り上げ意見交換を行なった。 校区広報誌やネット通信にがん情報を記載 地域での様々な会議や連絡会の機会を利用してがん予防について啓発し、受診勧奨を実施 校区イベント時に啓発し、実施状況を区のホームページ等に掲載 区役所の窓口やコミュニティセンター等にごんに関するチラシを設置し、ポスターを掲示した。【再掲2位】 	中央区保健子ども課
2	妊婦相談、幼児健診や家庭訪問等で、個別に健診の受診方法を説明した。	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 94回、延2,380 人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
4	<p>1歳6ヶ月児健診 79回1,921 人、3歳児健診33 回1,983 人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。</p> <p>その他、CKD予防教室1回34人、糖尿病予防教室2回41人、健康まちづくりサポーター70人に対して啓発を実施。校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位】</p>	東区保健子ども課
5	<p>校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でごんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位】</p> <p>校区単位で行ったイベント(上記3)94回、延2,380人</p> <p>健康まちづくりシンポジウム 1回250人</p> <p>いきいき健康フェスタ 1回36人</p>	東区保健子ども課
6	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、地域での啓発活動の場の提供など学校やPTAの協力が得られている。【再掲1位】	西区保健子ども課
7	<ul style="list-style-type: none"> 幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。 各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。 民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。【再掲1位】 	西区保健子ども課
8	<ul style="list-style-type: none"> 校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。 各校区の地域イベント、西区フェスタ等の機会を捉えて啓発を実施できた。3月6日に実施された上熊本エリア魅力発信まちづくり事業には、約300名の参加者に啓発を行った。【再掲1位】 	西区保健子ども課
9	<ul style="list-style-type: none"> 各校区の健康まちづくり活動の投稿実績は32件。 各校区が作成している広報誌に、健康課題として適宜掲載。【再掲1位】 	西区保健子ども課
10	西部公民館で5回実施された集団健診において、乳がんモデルや大腸がんモデルを使って、がん予防の啓発と受診方法についての周知を実施した。【再掲1位】	西区保健子ども課
11	子育てサークル・高齢者サロン・民協・地域のイベント、幼児健診等の機会を利用して、がん検診の受診方法や近くのがん検診実施機関を周知した。	南区保健子ども課
12	<ul style="list-style-type: none"> 受診方法を記載したチラシを作成し、配布した。 公民館だよりに2回掲載した。 	北区保健子ども課
13	40歳以上の国保被保険者に対して、特定健診とがん検診の受診方法についての詳しい説明リーフレットを個別に配布し周知を図った。	国保年金課

順位	カテゴリー名
4位	気軽に受診できる環境づくり

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	従来から行っている肺がん夜間検診はもとより、市が共催する街なか健診(於市役所本庁)の肺・胃・大腸がん検診を当会が担当し、成果を上げた。また、巡回健診時に受診の機会がなかった方への対象として、ヘルスケアセンターの健診日に一年を通して肺・胃・大腸がんセット検診を行っている。	熊本市医師会
2	歯科医師会とタイアップして検診日、もしくは検診週間を設ける 各歯科医院に気軽に相談できる体制と、大学病院等へのスムーズな紹介体制作り	熊本市歯科医師会
3	保険者の検診費用負担の拡大と「乳がん検診」や「前立腺がん検診」の「人間ドック」への導入。	熊本県保険者協議会
4	がん検診のみ検査可能な「セレクト健診」を実施	日赤熊本健康管理センター
5	職場の検診の中に組み込んで受診する。(年齢別に受診を義務付ける)	熊本市私立幼稚園協会

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜がん検診はこれまでと同様実施(10月～11月、2月)。実施日の増設についての協議は未実施。 ・街なか健診の実施 市役所本庁にて特定健診とがん検診を実施した(11月) 肺がん(64名)、胃がん(40名)、大腸(52名)の受診。 	健康づくり推進課
2	生活習慣病ネットワーク連絡会議の意見交換の中で、特定健診およびがん検診受診率向上のための取り組みや方法について話題として取り上げ、地域の協力による啓発や受診しやすい健診のあり方についてかかりつけ医の意見を仰ぎ協力を依頼した。	中央区保健子ども課
3	東区管内の医療機関とのネットワーク連絡会である生活習慣病対策ネットワーク会議を健康まちづくりシンポジウムと合同で開催、医療機関から25名参加。	東区保健子ども課
4	ホームページやフェイスブックで広報実施。健康学習会や会議、育児サークル等を活用し、若い世代へも啓発を行った。	東区保健子ども課
5	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾北校区で実施。H28・2・23 松尾北コミセンにて。 ・健康まちづくり部会の会議等で適宜情報提供を行う。 	西区保健子ども課
6	・10月に、特定健診の受診強化月間と同時に大腸がん検診の受診勧奨も実施。専用のチラシを作成し、地域の健康まちづくり活動と同時に、西区の医療機関でも啓発活動を実施した。特に、生活習慣病予防ネットワーク連絡会の開催案内を、校区担当保健師が持参し参加依頼を行うなど、地域の医療機関との連携の強化に取り組んだ。	西区保健子ども課
7	<ul style="list-style-type: none"> ・城南地区、富合校区、飽田地区、天明地区については、前年度どおり、基本健診と抱き合わせて実施。 ・H27年12月17日、平成分室にて、集団特定健診にあわせて、肺がん検診及び大腸がん検診(検査容器を配布)を実施。 	南区保健子ども課
8	生活習慣病対策ネットワーク連絡会開催前後には、特定健診実施医療機関45ヶ所を訪問し働きかけた。	北区保健子ども課
9	植木地区での集団健診について、保育園を通じて周知を行った。	北区保健子ども課

順位	カテゴリー名
5位	校区単位の健康まちづくりの展開

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	近隣の開業会員(医師)が校区のイベントに参加した。	熊本市歯科医師会
2	校区活動へ歯科医師会から講師派遣、校区への啓蒙をはかる配布物 禁煙指導	熊本市歯科医師会
3	各種団体と「健康課題」に関する話し合いはできていない。若い世代、高齢者も「健康」 に対する関心は高い(困りごとアンケートを実施した結果)、働きかけることができ るのではないかと考えている。	地域包括支援センター連絡協議会
4	地域のコミュニティーセンターなどで健康に関する研修会などを開く。	熊本市私立幼稚園協会
5	地域住民を対象に食生活改善を中心とした健康づくりのための普及啓発と共に、検診 の大切さを啓発した。	食生活改善推進員協議会
6	託麻原校区社協において地域支え合いネットワークおよびサロンで呼びかけをした。	中央区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	がん検診の受診率当のデータ、がん検診パンフレット等を情報提供した。	健康づくり推進課
2	中央区19校区全てにおいて、校区のイベント・健康講座、役員等の会議などの場を活用し、 がんに関する情報提供、リーフレットやクイズ・媒体を通して早期発見・早期治療 の必要性についてPRを行なった。 <実施状況 19校区 88回 延べ4,122人>【再掲1位】	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 94回、延2,380 人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
4	校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報 提供を行った。【再掲2位】 校区単位で行ったイベント(上記①)94回、延2,380人 健康まちづくりシンポジウム 1回250人 いきいき健康フェスタ 1回36人	東区保健子ども課
5	健康まちづくりサポーター1、2、3期生に対してがん、がん検診等について啓発。校区 単位の健康まちづくり活動の中でがん検診の広報を行った。	東区保健子ども課
6	・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会 等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。 ・各校区の地域イベント、西区フェスタ等の機会を捉えて啓発を実施できた。	西区保健子ども課
7	・地域での子育てサークル・高齢者サロン・民協・地域のイベントの機会を利用してが んに関する情報発信と受診できる日程の案内を行った。 ・南区いきいきフェスタでがんブースを作ることはできなかったが、CKDコーナー等 でがん啓発も行った。【再掲1位】	南区保健子ども課
8	校区イベントでの啓発パネル設置 4回155人	北区保健子ども課

順位	カテゴリー名
6位	職域及び保険者との連携

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	多職種連携を深め、総合的に取り組む	熊本市歯科医師会
2	企業や保険者との契約の元、事後指導等にて精検者へ受診勧奨を実施	日赤熊本健康管理センター
3	熊本商工会議所の会報誌「商工ひのくに」(発行部数約6,500部)平成27年4月号のコーナー「情報のひろば」において、「熊本市がん検診のご案内」を掲載。会員企業の事業主並びに従業員に対して周知及び受診啓発を行った。【再掲2位】	熊本商工会議所
4	労働安全衛生法に基づき、事業主に対する行政指導を実施した。	労働基準監督署

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	協定企業へリーフレット等を提供した。また、新たに1社とがん協定を締結した。	健康づくり推進課
2	出前講座の広報は未実施。出前講座1回 22人	東区保健子ども課
3	区内の企業やJA、旅館組合等に対し、従業員のがん検診受診勧奨のためのポスター掲示及び、受診勧奨依頼を行った(6箇所)	北区保健子ども課
4	特定健診とがん検診を同時に実施できる環境整備を図った。 H27年度 14ヶ所 (健康づくり推進課掲載) 街なか健診の実施 市役所本庁にて特定健診とがん検診を実施	国保年金課

順位	カテゴリー名
7位	未受診者への受診勧奨

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	要精検者に対しては、間隔を置いてヘルスケアセンター健診部(保健師、看護師)が、文書にて最大3回、受診を促がす方式を取る。本会の取り扱う精検受診率は全国レベルでもかなり高率である。大腸がん検診においては、検体提出の特定健診実施機関に早々に定量値を通知し、受診勧奨の後押しをもらった。	熊本市医師会
2	正しい知識を持っていただき、特に口腔癌は、治療後のQOLが下がりやすいので、早期発見、早期治療の大切さを周知する	熊本市歯科医師会
3	未受診者へは個別に人間ドックや事業主検診を受けるように協力を働きかけている。	熊本県保険者協議会
4	武将隊が出演する「人間ドック紹介」映像を製作し、一般の人が多く集まる場にて放映	日赤熊本健康管理センター
5	受診しやすい条件を個々に設定、対応する。	熊本市私立幼稚園協会
6	職場における定期健康診断の未受診者については、事業主を通じ完全受診を指導した。	熊本労働基準監督署
7	日頃の民生委員・児童委員活動の中で、必要に応じて関係機関を紹介できるよう取り組んでいる。	熊本市民生委員児童委員協議会
8	託麻原校区社協がサロンで呼びかけた。	中央区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	H27.6月末無料クーポン送付。クーポン未送付者(一定年齢の方のうち過去に受診歴がある方)へ熊本市がん検診の受診勧奨通知を送付	健康づくり推進課
2	<p>・1歳半健診時(34回 延べ1,451人)及び3歳児健診時(34回 延べ1,402人)、妊産婦健康相談時(1,978人)において、熊本市のがん検診のパンフレットを配布し、啓発を行った。</p> <p>・子育てネットワーク・サークル・児童室等における健康教育、育児相談等の場で啓発を行った。【再掲1位】</p> <p>・中央区19校区全てにおいて、校区のイベント・健康講座、役員等の会議などの場を活用し、がんに関する情報提供、リーフレットやクイズ・媒体を通して早期発見・早期治療の必要性についてPRを行なった。 <実施状況 19校区 88回 延べ4,122人>【再掲1位】</p>	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 94回、延2,380 人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
4	<p>校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位】</p> <p>校区単位で行ったイベント(上記①)94回、延2,380人 健康まちづくりシンポジウム 1回250人 いきいき健康フェスタ 1回36人</p>	東区保健子ども課
5	<p>1歳6ヶ月児健診 79回1,921 人、3歳児健診33 回1,983 人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。</p> <p>その他、CKD予防教室1回34人、糖尿病予防教室2回41人、健康まちづくりサポーター70人に対して啓発を実施。校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位】</p>	東区保健子ども課
6	アンケート調査やがんクイズ等を通して、参加住民と情報交換を行いながら、住民の意識や行動実態を把握しながら啓発活動を実施した	西区保健子ども課
7	校区イベント等で個別相談を受け、未受診の方にはリーフレット等を活用し受診の必要性や方法等を説明した。11校区、13回、412名に実施。	南区保健子ども課
8	<p>集団健診結果説明会での周知 8回 1,170人</p>	北区保健子ども課

順位	カテゴリー名
8位	かかりつけ医をもつことの普及促進と連携

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	健康フェスティバル開催案内の新聞広告に、かかりつけ医を持つよう促進を図った。精検実施機関から精検受診時の情報提供を依頼する等して、当会の専門医会（ヘルスケアセンター管轄）でデータを集約している。	熊本市医師会
2	かかりつけ医を持つことが、定期的にチェックしてもらえらることと、それが早期発見早期治療につながる事を啓蒙する	熊本市歯科医師会
3	精密検査が必要な受診者について医療機関を紹介	日赤熊本健康管理センター

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	生活習慣病対策ネットワーク連絡会の中で、地域住民と医療機関相互に意見交換を行い、かかりつけ医による健康づくり支援やがん検診の受診勧奨等の協力依頼を行なった。	中央区保健子ども課
2	校区単位で行うイベント等での啓発 94回、延2,380 人に実施【再掲1位】	東区保健子ども課
3	1歳6ヶ月児健診 79回1,921 人、3歳児健診33 回1,983 人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。 その他、CKD予防教室1回34人、糖尿病予防教室2回41人、健康まちづくりサポーター70人に対して啓発を実施。校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位】	東区保健子ども課
4	校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会等でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位】 校区単位で行ったイベント(上記①)94回、延2,380人 健康まちづくりシンポジウム 1回250人 いきいき健康フェスタ 1回36人	東区保健子ども課
5	東区でがん検診のチラシを約5,000枚作成。「かかりつけ医師、歯科医師、薬局をみましょう」と記載。説明しながら配布を行った	東区保健子ども課
6	健康相談や健康チェックのフォロー時に個別に実施した。	西区保健子ども課
7	生活習慣病予防ネットワーク連絡会で企画し、10月に特定健診の受診強化月間と同時に大腸がん健診の受診勧奨も実施。専用のチラシを作成し、地域の健康まちづくり活動と同時に、西区の医療機関でも啓発活動を実施した。特に、生活習慣病予防ネットワーク連絡会の開催案内を、校区担当保健師が持参し参加依頼を行うなど、地域の医療機関との連携の強化に取り組んだ。	西区保健子ども課
8	高齢者サロン等で伝えた。	南区保健子ども課
9	・平成27年11月を特定健診受診強化月間とし、チラシ配布や健診受診予約表の活用を依頼した。 ・「かかりつけ医を持とう！」という表題のチラシを各校区の民生児童委員協議会等にて配布を行い、また医療機関においてはポスター掲示を依頼した。	北区保健子ども課
10	12月～2月をキャンペーン期間としてテレビ、ラジオ、新聞広告、インターネット等により、かかりつけ医を持つことの必要性について周知を図った。 また、かかりつけ医の必要性について啓発リーフレットを保険証発送時に同封した。	国保年金課
11	出前講座「賢い患者になるために」(2件31名)と「在宅医療って知っていますか」(7件209名)、(合計9件240名) で、かかりつけ医を持つことの普及促進を図った。 また、冊子「かかりつけ医のススメ」を、出前講座や講演会時等に配布した。	医療政策課

順位	カテゴリー名
9位	若い世代への教育

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	ずっと先の事ではなく、若い時から正しい知識を持ち、予防に取り組むことが大切である事を理解してもらい、また、それを啓蒙する機会を作る。 禁煙指導	熊本市歯科医師会
2	・家族ぐるみの健康づくりを図るため、夏休みに「親子健康セミナー」を実施 ・40歳以上に限らず、若い世代を含め健康セミナーを実施。	熊本県保険者協議会
3	フェイスブック等、SNSにより健康情報を発信中	日赤熊本健康管理センター
4	保護者への啓発を行っていく。	熊本市私立幼稚園協会
5	小学校では保健学習、保健指導を充実させる。 ・「早ね、早起き、朝ごはん」を推進する。 ・休養、栄養、運動の必要性を理解し、実施する児童の育成を図る。 ・身体測定を通し健康な体について理解し、様々な疾病の原因等についても学ぶ。	熊本市小学校長会
6	子ども対象の食育啓発の際の保護者、高校生などの若い世代に、食生活の大切さと共に検診の大切さを周知した。	食生活改善推進員協議会
7	託麻原校区子育てネットワークで若いお母さん方のがん予防の啓発を行った。	中央区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校PTAバザーや運動会での健康相談時に普及啓発 学校保健委員会(児童・保護者対象) 2校区 2回実施 保護者90名 中学生とサークルとの交流会での普及啓発 (生徒・サークル保護者対象) 1校区 5回実施 生徒123名 保護者29名 子育てサークルでの普及啓発 14回 保護者223人 民生委員35人 市立幼稚園連合会健康講話で啓発 1回 参加者87名 民生児童委員、助産師、保健師訪問等のこんにちは赤ちゃん事業で産婦に啓発 1,514件 	中央区保健子ども課
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大の講義で、がん検診について普及啓発 1校200名 	
2	<p>県立大学主催のイベント協力時にがんについて啓発(1回 30人)、小学校PTAのバザー等での啓発(3回162人)、保護者向け講座2回183人。学生や子どもを持つ親世代に啓発を行った。</p>	東区保健子ども課
3	<p>臨地実習生62人に対して、がん、がん検診、がん予防(禁煙も含む)健康教育を実施。</p>	東区保健子ども課
4	<p>校区単位の健康まちづくり事業で、各校区の地域イベントに参加。また、西区フェスタでは、20歳～30歳代の多くの来場者に、大腸がんの啓発活動を実施できた。</p>	西区保健子ども課
5	<p>区役所の事業説明と同時に、がん検診の受診方法について情報提供を行った。</p>	西区保健子ども課
6	<p>実習生の実習オリエンテーションの時間を活用し、啓発を行った。</p>	北区保健子ども課
7	<p>熊本市薬剤師会等と共催で実施した薬物乱用防止キャンペーンにおいて、喫煙防止に関するパネル展示や啓発品配布等の広報啓発活動を行った。(また、市役所とウェルパルにおいても、パネル展示等の市民啓発を実施した。)</p>	医療政策課